

日本マス・コミュニケーション学会 36 期第 11 回研究会（メディア史研究部会企画）

メディア業界出身の政治家——歴史社会学的検討

日時：2019 年 1 月 26 日（土）14:00～17:00

場所：同志社大学新町キャンパス 臨光館（R）207 教室

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/shinmachi.html>

報告者：森暢平（成城大学）

山口仁（帝京大学）

司会：河崎吉紀（同志社大学）

企画の意図：

この研究会では、メディア業界出身の政治家について歴史的な動向を検討したい。『新潟新聞』主筆を勤めた尾崎行雄や、『郵便報知新聞』で記者を経験した犬養毅など、キャリアの出発点においてメディアに関係した政治家がいる。また、ジャパントイズ社長だった芦田均や、東洋経済新報社長でジャーナリストの石橋湛山はのちに首相となっている。これまでメディアと政治の関係は紙面や番組といった内容を中心に言及されることが多かったが、ここでは人材の輩出という点に着目する。

手がかりとして 2018 年 11 月に刊行された佐藤卓己・河崎吉紀編『近代日本のメディア議員——〈政治のメディア化〉の歴史社会学』を取り上げる。メディア業界に関連する衆議院議員を、1890 年の第 1 回総選挙から 1990 年の第 39 回総選挙まで 100 年間において洗い出し、「メディアの論理がメディアの枠を超えて、政治の制度、組織、活動にまで影響力を強めていくプロセス」という政治のメディア化を、人材供給の側面から考察したものである。

報告者として、ジャーナリストとしての経験をもち、戦前の記者倶楽部やジャーナリスト教育について詳細な研究実績をもつ森暢平会員と、社会学的な視座からジャーナリズムを理論的に考察してきた山口仁会員から、上記研究成果を批評していただき、メディアと政治の関係について理解を深める機会を設けたい。